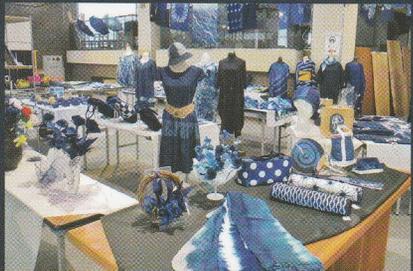




地域を照らした
奇跡の輝き

徳島市立木工会館と徳島市地場産業振興協会の記録
一九八二、二〇二〇、一九七九、二〇二一

編集・発行◎『地域を照らした奇跡の輝き』編さん委員会……二〇二二(令和四年)二月刊



▼その施設は、日本S.Fの父・海野十三(うんのじゅうざ)が幼少時を過ごした地域にあり、一九八二年、海野が通った福島小学校の裏手に建設された▼施設名は徳島市立木工会館▼二〇〇六年に徳島市地場産業振興協会が指定管理を受けて以降、驚くべき量と質の展示会や催しが開催された。藍染、しじら織、唐木(からぎ)仏壇、鏡台、タンス、様々な地場産業に関する展示・販売のみならず、各界著名人の追悼展(大杉漣、高畑勲、高倉健、星野仙一……)、高齢者が集う歌声喫茶、着物をリメイクしたファッション・ショー、ロング寿方巻の早食い大会等、創意工夫に満ちた企画が開かれた。それだけではなく、千支の引継ぎ、節分豆まき、七夕飾りクリスマス、季節の変わり日には、地域の子どもたちが行事に参加した▼会館では、年間百を超える催しが開かれた。ミニカー、貸本漫画、引き札、映画資料、野球やラグビー、収集家による各種コレクション展。木工細工・染物・手工芸等、長年研鑽を積んだ人々が技能を発表する場でもあった。ついに、プロレス大会も開かれた(大仁田厚引退ツアー)。その奮闘は、まさしく地域を照らす奇跡の輝きだった▼だが、市の針で木工会館は二〇二〇年三月、閉館に追い込まれた。さらに地場産業振興協会も二〇二一年秋、解散を余儀なくされ四十二年の幕を閉じた▼会館の閉館と協会の解散に涙した人も多くいた▼当資料集は、徳島市立木工会館と地場産業振興協会の栄光の軌跡を、全国の心ある人々や後世に広く周知するために編まれた▼徳島市立木工会館と徳島市地場産業振興協会の精神は永遠に不滅である!(編集責任者 小西昌幸)

